知らない世界にレッツ・農！

第２回

「シン兼業農家」をめざして
～チバニアン兼業農学校～

農援リポーター・行政書士　やなだ かよこ

農業人口減少の理由として、少子高齢化、後継ぎの不足、都市部への人口集中、安価な輸入食材の消費の高まりなどがあげられますが、日本の農地面積の41％は中山間地域にあり、大区画化や大型機械の導入が難しく、地域農業の担い手が育たない状況も背景にあるそうです※1。

昭和以前は、祖父の田んぼをお父さんが受け継ぎ、田植えと稲刈りの時期だけ会社や役所を休んで農作業するという姿、つまり、先祖代々営む農業が先に家業としてあり、農業で余った時間や足りない現金収入を補うために、会社勤めで定期収入を得るというのが「従来の兼業農家」の姿でした。

しかし、現代の兼業農家にはもう１つのスタイルがあることを知りました。これを「シン兼業農家」と呼ぶことにします。

「シン兼業農家」は、すでに会社員など定職を持ち、農業に縁もゆかりもない人が、会社員との兼業で農業を始める、というものです。「従来の兼業農家」は農業を辞め会社員の専業になることもありましたが、「シン兼業農家」はこの逆で、主収入を保ちながら自力で農業を二足の草鞋で始め、定年などで会社を辞めたあと、専業農家にシフトすることも視野に入れた兼業農家なのです。

農林水産省では、ホームページ※2で兼業農家について次のように定義しています。

兼業農家	世帯員の中に兼業従事者が１人以上いる農家
第１種兼業農家	農業所得を主とする兼業農家
第２種兼業農家	農業所得を従とする兼業農家

従来の兼業農家は当然ながら、シン兼業農家も「第２種兼業農家」の一員ということです。今号では、シン兼業農家志望者をサポートするためにユニークな取組みを行っている、「チバニアン兼業農学校」※3をご紹介したいと思います。

チバニアン兼業農学校は株式会社おひさま総合研究所が運営しています。入

校から修了まで３か月間で、授業は「オンライン（Zoom）」と「実技」で提供されます。2024年２月現在は、第７期生への授業が行われているところで、2023年９月19日現在、延べ入学者数：164名、就農者数58名、認定新規就農者数４名を生み出しています。

校長の平山泰朗さんは長崎県出身、千葉県睦沢町に本籍を移し、おひさま総合研究所の太陽光発電事業、チバニアン兼業農学校の校長として生徒へ指導を行いながら、自らも田を持ち農業を営む、「シン兼業農家」の１人です。Web制作会社経営、デジタルハリウッド大学院客員教授や衆議院議員を経て、2021年に当校を設立しました。専業農業を甲子園、兼業農業を草野球にたとえ、「本業を持ちながら草野球的に副業で農業を行ってもよいのでは？ しかし、その副業農業に特化した教育機関がない」という気づきから開校を決断されたとのことです。

チバニアン兼業農学校で重要な役割を果たすのは「サークルスクエア」※4というグループ共有管理アプリサービスです。授業のスケジュール、レジュメの配布、連絡などすべてがサークルスクエア内で完結します。「省力栽培・オリーブ部会」「６次産業化」「自然栽培」などのチャットグループも設けられており、すでに修了した先輩と後輩との間で情報交換や交流ができる環境も提供されています。

実習風景1：温室乾燥させた落花生※5

授業の内容として、週２回のZoom授業では、提携する日本農業実践学園※5の籾山学園長による植物の生育や肥料、平山校長による農地取得や探し方、農家税理士による農業税務、JA三井リースによる農機具リースなどがあります。20時開始という、本業に配慮した開始時間も絶妙で、過去動画の視聴もできます。

実習風景２：落花生の脱穀※5

実習・対面授業は月４回程度あります。実習では、チバニアン兼業農学校の睦沢町の圃場で野焼きや草刈り、森林整備を行ったり、日本農業実践学園でトラクターの運転、植え付けや収穫、東京オリーブ※6でオリーブ樹木の植え付けや剪定を行うなど、季節に応じた柔軟な内容になっています。実習は悪天時

実習風景３：ゴボウを抜く機械※5

に無理に行うことはないので、快晴のもと同期と土をいじり、初めて見る大型農具にわくわくし、その日収穫した芋や野菜のおすそ分けがあると楽しみは帰宅してからも続きます。事前相談のうえ実習やイベントに子供や家族が一緒に参加でき、これまで農業にかかわったことのないデスクワークの方でもスムーズに馴染んでいける内容になっています。なお、最近、遠方からの受講ニーズに応え、座学中心のオンライン視聴コースも創設されました。

そして、「卒業」という概念がなく、修了後もチバニアン兼業農学校のサークルスクエアに参加し続けることができるため、その後のイベントへの参加、Zoom 授業の見直し、休んだ実習への参加等ができます。先に兼業農業を始めた「先輩」の援農情報が流れます。たとえば先輩圃場のほうれん草やさつまいもの収穫作業、また蕎麦の実を刈る作業に参加しながら情報収集と実体験ができ、自らがどのような作物で兼業農業を始めていくか、考えるうえでの好例を知ることもできます。

さて、６期生として参加した私が実際に感じたことは、自らの希望で「兼業で」農業を選ぶ就農者は弱いということです。農家に生まれた方は、会社員で田んぼをやっていてもとやかく言われません。親の代からの農機具もあり、「会社員をやりながら田んぼを守って偉いね」というイメージです。一方、会社員から兼業で田んぼをやりたいとなるとハードルが高いのです。

まず、農地を借りること、買うことが難しいのです。いきなりの専業からの収入減のリスクを回避するため、就農後数年は定期収入を維持し生計を成り立たせながら、自家消費と道の駅でちょっと売る営農スタイルで始めたいと堅実に計画しても、農地がないと作物を作れない、一方農業で実績がないと農地を借りたり買うことができないという、「タマゴが先かニワトリが先か」の問題になります。どこかで突破口が必要ですが、チバニアン兼業農学校では、睦沢町に自身が保有する農地を生徒に貸し、実践の場を提供する仕組みもあります。また、睦沢町と良好な関係を築き、貸したい・売りたい土地情報が生徒へ伝わる仕組みができています。

新規就農では農機具の所有や土地の初期環境整備も必要になります。専業農家の場合は、認定新規就農者制度等を活用すれば、申請できる補助金も多くなります。しかし、兼業の場合は認定新規就農者になることも難しく、活用でき

る補助金が限られてくるのです。中古の機械でいいやと思っていても、中古では補助金対象外とされる場合もあります。睦沢町で就農する場合は、チバニアン兼業農学校が保有する農機具を借りたり、すでに兼業農家として就農している先輩との協力関係も期待できます。

シン兼業農家志望の入学者もとても真面目です。実習時、ほかの方に遠慮しつつもできるだけ自分がやってみたいと積極的に取り組まれます。睦沢町の地域活動にも積極的に参加し、開校当所は「兼業？！」とけげんな顔をしていた周囲の方々も、学校の圃場近くの自宅のトイレを貸してくださったり、野菜作りのノウハウを教えてくださるようになったり、自分の土地を使わないかと申し出るような方も増えたそうです。

チバニアン兼業農学校の研修事業に後援の承認※7を行ったことのある睦沢町からは、耕作放棄地問題の解消に一役買っているという意見がありました。

私自身入学後一番の思い出は、教員の松永先生の豚汁です。実習日の昼食はお弁当持参になりますが、松永先生が自宅から七輪を持参し、朝から大鍋へ材料を放り込んで、豚汁が煮込まれていくのです。実習でおなかも空いている好天のもと、松永先生にもっと食べろとすすめられながらみんなですする豚汁のおいしさには次元の違う幸福を感じることができました。

会社員等本業がありながら農業もめざすシン兼業農家を支援するための取組みやサービスが、行政とJAの双方から増えることを期待しているところです。

実習※5の収穫：自宅へのおすそ分け

※1　農林水産省：農業をする人がへっている理由をおしえてください。
https://www.maff.go.jp/j/heya/kodomo_sodan/0005/19.html
※2　用語解説
https://www.maff.go.jp/hokkaido/toukei/kikaku/database/attach/pdf/index-2.pdf
※3　チバニアン兼業農学校　https://chibanian.info/
※4　サークルスクエア　https://www.c-sqr.net/
※5　日本農業実践学園　https://nnjg.ac.jp/
※6　東京オリーブ　https://tokyo-olive.shop-pro.jp/
※7　「睦沢町行事の共催、後援及び協賛に関する規則」に基づく

プロフィール
梁田佳世子　いちご農家での６年間の就農経験から、国産農作物と農家・農業を発展させ守りたい、と、行政書士業と、農業・農家への多方面からのアプローチを行っています。チバニアン兼業農学校第６期生、早大二文卒。趣味は旅行、ワイン、犬